



# 「真岡市」

## いちご・SLをはじめ、5つの「日本一」のある街

真岡市といえば…



「SL」

「真岡」といえば、やはりSL。真岡鐵道では、真岡線（下館駅～茂木駅間、41.9km）でSLもおか号を運行（土・日・祝日 1日1便）するほか、真岡駅のSLキューロク館では9600形などの蒸気機関車を展示、さらに土・日・祝日には1日3回、圧縮空気によるデモ走行を行います。今年11月には静岡市から譲渡されたD51が移設・公開される予定で、ファンにとってはまさにSLのメッカといえるでしょう。

真岡市の見どころ

❖中村八幡宮  
創建1300年以上の歴史を誇り、源頼義・義家が北関東に建立した8社の八幡社の一つ。伊達家出身の地であり、9月の例大祭にはやぶさめの神事が行われます。

❖長沼八幡宮  
坂上田村麻呂が建立し、源頼義・義家の信仰も篤かった古社。4月の例大祭の太神楽の奉納や7月31日の茅の輪くぐりが有名で、青銅造鳥居は県指定文化財です。

❖井頭モーターパーク  
未経験者や女性、子どもでもカートなどのモータースポーツを気軽に体験できます。

❖道の駅にのみや  
県内で2番目に建設された道の駅。年間30万人が利用し、いちごやその他農産物の直売所のほか、県内のいちごに関する情報を提供するいちご情報館が人気です。

❖久保講堂  
昭和13年、遠藤新氏の設計で建てられた真岡小学校の講堂で内部は広い板敷き、2階はギャラリーになっています。平成9年には国の有形文化財に登録されました。

❖さむらい刀剣博物館  
刀匠・研磨師の館長が国内外から収集した刀1600振りを所蔵し、常時100振りを展示します。

❖二宮尊徳資料館・桜町陣屋跡  
野州桜町の復興事業（桜町仕法）を行い、旧・二宮町にその名を残した二宮尊徳（金次郎）が、同地で過ごした役所跡が桜町陣屋跡（国指定史跡）。周囲には、尊徳の遺品やその偉業を紹介する尊徳資料館、二宮神社、金次郎墓場などがあります。

❖根本山  
市東部の里山である根本山には、自然とのふれあい施設である自然観察センターや自然観察路が整備されています。春には、桜の名所として親しまれています。

県内探訪

名所を歩いて

西 東



豊かな自然や歴史的遺産を通じて県内各市町の姿をご紹介します。今回は真岡市をご紹介します。

真岡を歩く

「真岡市の『日本一』をめぐるコース」



コースガイド

真岡市は、県南東部の緑豊かな市。古くは江戸時代から「真岡木綿」にその名を残し、地域の経済・文化の拠点として栄えてきました。

そんな真岡市には今、「5つの日本一」があります。

そのひとつは、SL。明治45年に日本初のローカル線として誕生した真岡線は、昭和45年までSLが運行していました。その後、JRから路線を引き継いだ第3セクター・真岡鐵道の下でSLの定期運行が復活。2市3町を結ぶ貴重な生活路線ではありますが、SLの通年運行日本一の名物鉄道として全国からファンを集めています。

同時に真岡市は、いちごの生産量・販売額で日本一を誇ります。最近は大規模な工業団地もあり、農・工・商のバランスのとれた発展を続ける同市ですが、基盤の農業分野では、昭和32年から始まったいちご栽培が、恵まれた気候と生産者の努力が結びつき、急速に発展。現在は主要品種の「とちおとめ」のほか、新たな品種である「スカイベリー」や「なつおとめ」なども加わり、さらなる増産が期待されています。

このほか市内には、日本一のサイズを誇るえびす様・涅槃像・弁財天半跏像なども存在し、多くの人が集まる名所となっています。

SLの通年運行日本一

真岡駅/SL

関東の駅100選に選ばれ、SLを模した駅舎がユニークな駅。9600形などの蒸気機関車や旧型客車を展示するSLキューロク館、SL関連の展示が充実した真岡市情報センターもあり、SLの走るまちの拠点施設として人気を博しています。



海潮寺

1510年の創建で、真岡城主・芳賀氏の菩提寺だった寺。県の有形文化財に指定された山門は、大谷石を削って瓦にした珍しい造りです。



真岡木綿会館



独特の風合いと光沢で、江戸時代には全国のもめん問屋で圧倒的な地位を築いた真岡木綿の技術を体験できる施設。機織りや染色体験も人気です。

久保記念観光文化交流館

昨年10月のオープン、5つの建物で観光情報の発信や市の物産の販売、美術評論家の久保貞次郎氏の美術品等が展示されています。中核施設の久保記念館は、日本銀行宇都宮代理店真岡出張所真岡支金庫として使われていた建物です。

真岡りす村  
ふれあいの里  
りすやうさぎ、プレーリードッグなどの小動物と間近で触れ合える施設。パターゴルフやバーベキュー施設もあり、家族で一日楽しめます。



日本一の大きさのえびす像

大前神社・恵比寿神社  
大前神社は1500年有余の歴史を誇る神社で、お宝骨董市の開催でも知られます。境内地の大前恵比寿神社には、高さ20mと日本一の大きさのえびす像があります。



半跏像では日本一の大弁財天



長蓮寺

1297年開山の古刹で、座高345cmの半跏像では日本一の大きさの大弁財天があります。

市内のその他の「日本一」

いちご生産量日本一  
井頭観光いちご園  
生産量・出荷額とも日本一を誇る真岡市のいちご。1～5月の季節には、公園隣接の観光いちご園を始め、市内各所のいちご園でいちご狩りが楽しめます。

井頭公園  
日本の都市公園100選にも選ばれた公園で、緑豊かな93.3haの広大な敷地には、観光いちご園のほか、バラ園、高山植物館、花ちょう遊館、温泉、新鮮野菜の直売所・あく里っ娘などの施設が点在します。夏季には一万人プールがオープンし、年間80万人以上が利用します。

寝姿の涅槃像日本一  
専修寺  
1225年の建立で、親鸞上人が創建した唯一の寺。境内が国の史跡、御影堂・楼門などは国指定の重要文化財です。釈迦如来入滅時の姿を再現した木造・金箔塗りの3mの大涅槃像は寝姿の涅槃像として日本一。



真岡市

昭和29年3月の真岡町等1町3村の合併に続き、10月には市制施行により真岡市が誕生しました。さらに平成21年には二宮町との合併で、現在の真岡市ができています。古くは江戸時代より真岡木綿や酒造などの産業が栄えた土地柄ですが、昭和に入ってから30年代より工業団地の造成が進み、自動車関連や電子機器などのハイテク企業の進出が目立っています。

面積：167.34平方km  
人口：80,529人（28,448世帯）